

松葉屋通信

matubaya
-tushin
vol.06
2005.8.15

発行 ■ 松葉屋家具店
026-232-2346

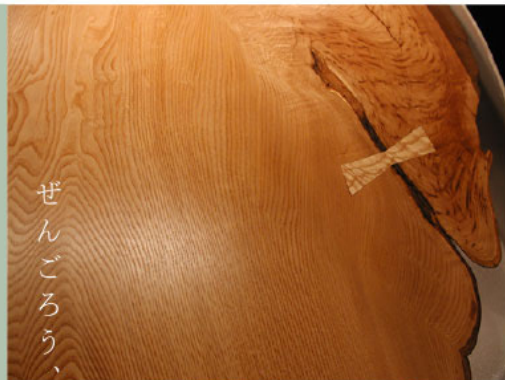
善五郎、西へ。

今年2月のことでした。早朝5時に信州を出発した善五郎一行は一路、西へと走ります。空気がキリリ、音はシン。遠くまで、わずかな話し声も飛んでゆきます。

京都の田村さまが松葉屋にいらしたのは、遡ることおよそ2年、春の日のことでした。

「新築を控えていて、新居には一枚板のテーブルを考えているのだけど…。是非、栗の木で作りたいのだけれど。」

今ほど防腐処理加工の進んでいない頃、家の土台を守るには「栗の木」でした。地面に近い風雨にさらされる場所で、しかも横になって家をささえられる木材はそう多くありません。「栗の木」は、その代表選手だったのです。でも現在、栗材は少なくなっていました。硬くて丈夫、水にも強く木理も美しい優れた特性を持つ栗、テーブルにできるほどの年月を経た栗材はさらに少ない。そして田村さまがこだわるのは「信州産」でした。



ぜんごろう、にしへ。



吟味した信州産栗の木。



- 上：7時間弱かけてようやく到着。
- 中：みっしりつまった栗の一枚板は、相当に重い。
- 下：2階の窓はら中へ、慎重な人力作業。



一緒にお届けしたデスク。

ここから、まず希望にかなう「栗」を探しはじめて半年はあっという間。それでも良い栗材と出会うことができ、田村さまにも納得していただき、家の工事期間が延長された分を幸いにお打ち合わせを重ね、製作にまた半年。カレンダーがもうすぐ2巡しようとする頃の納品となったわけです。

この充実感を保ったまま、テーブルは田村さまのリビングで、ここちよい重力を表現し続けてくれるものと、思っています。

お正月の 吉田さんのこと。



ななつ道具通信…その1

元旦と2日は、吉田さんがはるばる静岡から在廊。お客さまからの質問に、一つ一つ丁寧に受け応えしている姿が、とても印象に残りました。何か質問されると、ひと呼吸おいてから、ゆっくりと、吉田さんの言葉で応えてくれるのですけれど、なぜか、フフフと楽しい気分が続いていくので、いつまでも話していたいなーと思わせてくれる人。何をのせても料理映えする器をつくる人だから、誰でも受け入れてくれるおらかな人柄…と分析しておりましたが、人の言うことは絶対に聞かないところが…、という近しい人のお話もありました。

来年の個展では、この一年のどんな成果がみられるのか楽しみにしています。

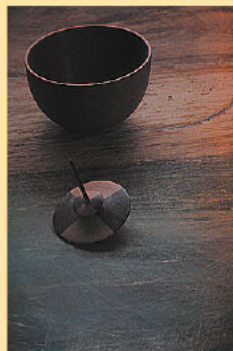
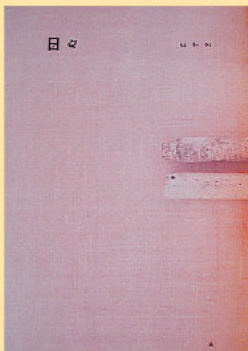
今年のお正月に吉田直嗣さんの個展がありました。通年お正月は、たいへんな賑わいなのですが、それに加えて、吉田さんの器を楽しむに、大勢の方が足を運んでくださいました。ありがとうございます。



吉田さんは、白磁の黒田泰蔵氏に師事された後、富士山の麓に築窯。高温で長時間焼き締めるので、金属のような質感になるのだそうです。

ななつ道具の本のこと。

ななつ道具通信…その2



ななつ道具に初めて、本がお目見え。

日々、ユルリナの2冊。どちらも、本屋さんにとくさん並んでいる本とは、ちよっと、ちがいます。ななつ道具に並んでいる器のように、この本からも作り手の温もりを感じられます。

手触り、装丁、イラスト、ことばや写真、テーマの選び方…。すべて心地よさが基準になっていて、どのページを開いても、ゆったりとした時間がながれています。

ぜひ手にとってごらんにおでかけください。

今年の春、和食やさんでごはんを食べていた女性4人が、雑誌をつくりましようという話になって、実現した本。メンバーは料理家の飛田和緒さん、カメラマンの公文美和さん、スタイリストの久保百合子さん、編集者の高橋良枝さん。日々の暮らしのなげない幸せが、詰まっています。 630円

パン・カフェの常連さんである彼女が、「こんな本つくっているんです」と控えめな印象で、ユルリナ01を見せてくれた。(これ、私が昔、やりたかったことだ…) 編集の仕事をしていた頃、生活にかかわるこうした小さな本を、作りたかったキモチを思い出しました。今回の特集は「パンが食べたくなるいくつかの理由」。ずっと応援していきたい仲間です。 500円

ユルリナさんのことは、結び目をゆるりとくよな感じ。写真もとてもよいのです。





軽井沢のカフェへ、家具を納品

今年の7月1日、軽井沢に生活の道具とカフェのお店、「Cottage 415」がオープンしました。
 テーブルは、オーナーのご指示により、松葉屋で制作したオリジナル。それにあわせて6月に、家具の納品にいたしました。
 ハンス・ウェグナーのゆったりとしたアームチェアに、ちょうどぴったり、バランスのよいテーブルに仕上がりました。

くらしの道具／カフェ Cottage 415



この椅子とテーブルに席をとり、鳥や虫の声をBGMに木立の緑や吹き抜ける風を感じながら、おいしいお茶をいただけるなんて、贅沢。とため息をつきながらの納品となりました。
 ごちそうになったロールケーキは、オーナーである数歩尚子さんのお手製。ふんわりとやわらかくて、ほんとうにご馳走です。

数歩さん夫妻は、ずっと松葉屋の常連さんで、ルヴァンのおいしいパンを手みやげにいらしては、楽しく時間が過ぎていき、逆にこちらがもてなされているような感じ。
 このお二人のお店ですからさぞかし居心地がよいことでしょう。
 私は、個人的にお連れしたい人が数人いて、早くその日がくるのを楽しみに仕事をしている日々です。
 「ななつ道具」店主

〒389-0111 長野県北佐久郡
 軽井沢町長倉2141-415
 TEL/FAX 0267-44-4415
 火・水曜定休(7/21~8/31は水曜定休)



この看板が目印。
 作家で友人の手描きだそう。
 松葉屋にも描いてほしい。

家具のこと、さらに知りたい方に、
 家具屋より詳しくなる「小冊子」を差し上げます。

ご希望の小冊子名をご記入の上、

下記までご請求ください。

fax 026-237-4558

フリーダイヤル 0120-55-2346

E-mail since1833@matubaya-kagu.com

- 「塗料を知る」 **New!**
- 「木の小冊子」
- 「今さら聞けない、家具の基礎知識」
- 「HANS WEGNER ON DESIGN」
- 「北欧の椅子について」



松葉屋家具店

〒380-0841 長野市大門町45
 TEL026-232-2346
 FAX026-237-4558
 (木曜定休)

© 松葉屋家具店+道具学研究所2004
 All rights of copy in this paper are reserved.

Design * kai-pan

Matubaya

Book Shelf

select・5



力を感じます。
 年までに68刷を重ねてきた実
 1965年の初版以来2004
 いももこ」の無駄のない文章力
 再発見できます。さらに「いし
 うつくしき、日本人の色使いを
 れよりも説得力と空気感のある
 中の王朝時代は、映像で見ると
 日本画家「秋野不矩」の絵の
 もふこく
 文絵

文絵
 数ある「いつすんぼうし」の
 中でも特におすすめの一冊です。

いつすんぼうし

福音館書店